

ディリー・ジーザス・ニュース #251

火曜日…テストと指導の日

イエスは信仰による祈りの力について教える
マルコ 11. 20-25 (並行テキスト:マタイ 21. 20-22)

20 火曜日の朝、彼らは道を歩いていると、いちじくの木が根元から枯れているのを見ました。21マタイ伝弟子たちはこれを見て驚き、「いちじくの木はどうしてこんなに早く枯れてしまったのですか」と尋ねました。

ペテロは思い出してイエスに言った、「ラビ、ご覧ください！あなたが呪ったいちじくの木は枯れてしましました！」

22イエスは答えて言われた。「わたしはあなたたちみんなに命じる。神に対する信仰を保ち続けなさい。」

23マタイ「わたしは真実を言います。もし信仰を持ち続けて疑わなければ、いちじくの木になされたようなことが、あなたがたにもできるのです。Mまた、だれでもこの山に向かって、『あなたに命じる。行って海に飛び込め』と言つても、心の中で疑わず、自分の言ったことは必ず実現すると信じていれば、そのとおりになります。

24だから、私はあなたに命じます。祈り求めるものは何でも、すでに受けたと信じ続けなさい。そうすれば、そのとおりになります。

25また、あなたが立って祈るとき、もしだれかに対して何か恨みを抱いているなら、私はあなたに命じます。それを赦しなさい。そうすれば、天の父も、あなたがたの罪を赦して下さるであろう。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク=^M、ルカ=^L、ヨハネ=^J、使徒行伝=^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。** 旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	ベタニアからエルサレムへの道
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	C. 火曜日：テストと指導の日
タイトル	1. イエスは信仰による祈りの力について教える

コメント:

デイリー・ジーザス・ニュース #251

受難週の三日目、火曜日がエルサレムで明けた時、イエス以外には誰も、それが彼の生涯で最も実りある宣教活動の三日間の一つとなることを知りませんでした。それは、他に類を見ないほどの試練と教えの一 日でした。

律法は、礼拝のために犠牲に捧げられるすべての動物は祭司によって審査され、聖なる完全な神に捧げるにふさわしいと宣言されなければならぬと定めていました。これは過越の子羊にも当てはまりました。こうしてイエスは受難週の火曜日に、イスラエルの指導者たちによる厳しい審査を受けました。イエスは徹底的に審査され、罪も過ちも見つかりませんでした。それどころか、イエスは知恵、真実、落ち着き、そして教えによって審査官たちを厳しく叱責し、ご自身が試されるのを見守る群衆の前で、彼らの偽善を暴きました。

この一日におけるイエスの教えは、福音書がイエスの生涯について語るすべてのことのおよそ10%を占めています。永遠に記憶されるべき日でした。聖霊は福音書記者たちにそうするように促しました。それは私たちも、彼らの証しを通して、彼らと同じようにイエスの足元に学び、驚嘆できるようにするためです。さあ、そうしましょう。

その日は、イエスの祈りに関する壮大な教えで始まりました。それは、前日に実を結ばなかつたいちじくの木が一瞬にして枯れてしまったことから導き出された、実に具体的な教訓でした。夜明けの光が増す中、弟子たちがエルサレムへ向かう途中、枯れ果てた木のそばを通り過ぎた時、彼らはそれが内側から、外側から枯れてしまったことに気づかずにはいられませんでした。彼らはそのような光景をこれまで見たことがありませんでした。

イエスはこの教訓の機会を用いて、信仰の本質と祈りにおけるその役割について、いくつかの重要な教訓を示されました。私たちは今、これらの教訓を指摘することしかできず、真理の完全な探求は皆さん自身の探求に委ねられています。

まず、イエスが祈りを極めて実践的な事柄と捉えていたことが分かります。御父は文字通り祈りに答えてくださいました。ですから、祈りは本質的に、神に具体的なものを求め、受け取ることだったのです。イエスは疑いなく、祈りは三位一体の神との交わり、つまりコミュニケーションによる交わりであると教えました。しかし、聖書に豊富に記された、祈りに関する福音書の300以上の教えをすべて精読すると、イエスが現実主義者であったことが明らかになります。神の計画は、祈りに答えることによって私たちの必要を満たすことであり、祈ることは求め、受け取ることなのです。

DJN（旧約聖書）の中で、イエスは祈りを信仰の中心に据えて人生を送られたと見てきました。そして弟子たちにも同じようにすることを願われました。だからこそ、イエスはここでこう言われました。「あなたたち皆に命じます。神への信仰を堅く保ち続けなさい。祈りの中で願い求めるものは何でも、すでに受けたと信じ続けなさい。そうすれば、それはあなたのものとなるでしょう。」

第二に、イエスは弟子たちに、ご自身がいちじくの木を枯らすことで示したのと同じ権威を祈りにおいても行使することを期待されました。言い換えれば、父なる神が御子にご自身の名と権威を授けられたように、

デイリー・ジーザス・ニュース #251

イエスは弟子たちとご自身との交わりゆえに、ご自身の権威を弟子たちに授けられたのです。権威ある祈りは、イエスにとってそうであったように、私たちにとっても日常的なものであるべきです。

第三に、神の答えを信じない祈りは無意味です。イエスは、神が「答えてくれる」のではなく、「答えている」と信じるようにと命じました。イエスは祈りが叶うという「過程」というアプローチを用いました。私たちは、答えが既に与えられており、今まさに私たちに届けられようとしており、いつでも届く準備ができると信じるべきです。「過程」という言葉がまさにそのことをよく表しています。

私は定期的にAmazonで本を注文しています。注文して発送通知を見ると、「配送中」の商品が必ず私の手元に届くと信じています。まだ実物を手にしていないにもかかわらず、すでに私のものなのです。イエスはこのように、祈りが聞き届けられたと信じるようにと私たちに命じました。求めるものは既に与えられていると信じなさい。そうすれば、必ず与えられます。

最後に、マタイ6章5-14節にある個人的な祈りの指針である「弟子の祈り」のように、イエスは祈りを許しと結びつけました。信じることが最も難しいことの一つは、私たちが真に他人を許すことができるということです。許せないことは、動かさなければならない高い山のように思えるかもしれません。イエスは、私たちが何か恨んでいることがあれば、それをすべて許さなければならない、そうすることで私たち自身も許される、と言われました。

真実は、イエスが全世界の罪の代価を払うために十字架上で死んだということです。ですから、イエスが私の罪の代価も払ってくださったと確信できます。ですから、あの十字架は、私自身の赦しを買ったのと同じように、私に対して罪を犯した人々の赦しも買い取ったのです。もし私が、十字架を通して神が他の人々を赦してくださったことに賛同しないなら、私自身の赦しについても賛同しないことになります。

私たち個人の赦しは、イエスの死を通して他者の罪が赦されたことと不可逆的に結びついています。それは一つの犠牲であり、すべての罪を覆うか、あるいは全く罪を覆わないかのどちらかでした。これが、私たちが他者を赦すことと、神による私たち自身の赦しとの間にある決定的なつながりです。イエスはすでにすべての代価を払ってくださいました。これを否定することは、私たち自身を滅ぼすことです。

応用：

イエスによれば、私たちの誰もが祈りにおいて力強くなれない理由はないのです。実際、弱々しく、気弱な祈りの働きには言い訳の余地はありません。

私たちは皆、イエス様と同じように、聖霊を通して父なる神に近づくことができます。イエス様はご自身の完全な義と、父なる神の御前に立つことによって、すでに私たちの祈りの答えを買い取ってくださっています。父なる神はイエス様のために私たちの祈りに答えてくださいます。旧約と新約のあらゆる約束は、新約の流された血を通して、私たち一人ひとりにとって今や「はい」です。祈りにおける私たちの成長と力を制限している唯一のものは、祈りの実践です。

ディリー・ジーザス・ニュース #251

今日の朗読に基づいて、あなたは祈りの人生を歩み続けるために、粘り強く努力することを改めて決意しますか？このイエスの戒めは、あなたの祈り方を定めるものになりますか？いつから始めますか？